

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市西多賀児童館		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和3年度 17,734人（前年度比 126.3%） ・令和2年度 14,036人 ・令和元年度 17,977人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 26,424千円 (26,031千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、地域懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、市民センターのホールを活用した運動遊びや工作遊びなど遊びの充実が図られており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》

「安心安全な居場所づくり」「自主性を育む活動の在り方」「利用する方々の思いに寄り添うこと」を課題とし、全職員で工夫と努力を重ねてきました。

乳幼児行事では、自宅で過ごす時間が多く交流が減り、ストレス感も出てきたという思いを踏まえ、他者と関われる行事「あかちゃんタイム」や親子で楽しめる活動「ママとあそぼ」、市民センターと連携し悩みを一緒に考える「子育て講座」を行いました。自由来館ができる時期は、多くの乳幼児親子の皆さんが遊びをとおして交流を深めました。利用者の方々からは、このような時期だからこそ、行事や遊び場があったことで、一人で悩まず、ストレスも溜めることなく生活できましたという声をいただきました。また、その活動を支えてくださる子育て支援クラブや読み聞かせボランティアの皆様からも、活動の場ができたことが、次の目標につながるという話をいただきました。

毎日の児童クラブの生活は、児童だけではなく保護者の方との双方向の連絡や相談を今まで以上に丁寧に言い、日々の衛生的な生活や感染防止に配慮した行事の実現について考えてきました。市民センターとの併設館という強みを生かして、広いホールを使った運動遊びの時間やジュニアリーダーと遊ぶ機会を設けたり、作ったプレゼントを老人クラブへお渡ししたり、地域防災リーダーをお招きして防災活動（防災絵本、ランタン作り）を行ったりなど、三密に留意した、児童と地域の方々との心温まる交流ができました。

また、「わんぱくタイム」「ドッジボール大会」「お別れ会」では、高学年児童がリーダーとして企画・活躍する場を設けました。どのグループもリーダーを中心に仲良く協力する姿が見られ、心の成長が見てとれました。

今後も自主性を育み、安心安全な居場所を作り、そして地域とともに歩む「夢いっぱいの子どもの居場所」運営を目指し努力していきます。

《施設設置者（仙台市）による評価》

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置等の発令があったが、児童クラブに関しては、年間通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部は休止としていたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。

児童健全育成事業においては、例年行ってきた「わんぱくタイム」「つくっちゃおう」など児童クラブの子ども達と行い、事業の継続に努めた。「わんぱくタイム」では様々な運動遊びを取り入れて心身の健全育成を目指すと共に、高学年がリーダーとして企画運営するなど活躍できる機会を作り、子ども達が主体的に活動できる環境を整えていえる。「ハッピーハロウィン」では、パレードの代わりに児童が作ったタペストリーを商店街の方々にプレゼントして交流を継続した。

子育て家庭支援事業においては、申込制で「ママとあそぼう」「あかちゃんタイム」を実施した。季節の行事や手形アート・ごろりんアート、バルーン遊び、ベビーマッサージや親子ヨガなど多彩な内容で毎回定員を上回る申し込みがあり、乳幼児の豊かな体験と保護者同士の交流の場として好評を得ている。保護者のニーズを受けて、市民センターと共催で行った「にしたが子育て広場」では、近隣の保育施設や関係機関と連携しながら支援を行い、地域で安心して子育てができる環境作りを努めている。

地域交流推進事業においては、市民センターや町内会・敬老会・地域団体と連携しながら、途切れない交流を工夫した。「西多賀今昔かるた大会」「三神峯公園清掃活動」など地域に根差した活動は、自分たちの住む地域への理解と親しみを感じながら地域の多世代の方と交流を図る機会となっており、地域交流の拠点としての役割を果たしている。

放課後児童健全育成事業においては、「ジュニアリーダーとあそぼう」を再開し、様々なゲームを中学生と楽しんだ。異年齢交流の中で、高学年がジュニアリーダーへの意欲を持ち次世代につながる活動となっている。

総合評価

S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課